

令和7年度8月期古賀市社会教育委員の会議 議事録

【 会議名称 】 令和7年度8月期古賀市社会教育委員の会議

【 日 時 】 令和7年8月22日（金） 18時30分～19時30分

【 場 所 】 リーパスプラザこが交流館 103洋室

【 内 容 】 ・今年度の取組検討について

【 出席委員 】 園議長、安部委員、石川委員、梅谷委員、
大賀委員、坂崎委員、藤田委員、江口委員（以上委員8名）

【 欠席委員 】 橋爪委員、倉掛委員

【 事務局 】 生涯学習推進課長、職員2名

【 傍聴者数 】 0名

【配布資料】

- ・ レジюме
- ・ 資料 1 第 10 回笑顔のつどい進行案
- ・ 資料 2 第 10 回笑顔のつどいスケジュール（案）

1. 開会

2. 協議事項

(1) 今年度の取組検討について

（園議長）

前回の会議の振り返りについて資料の説明

（安部委員）

読書の重要性について、自分が勤務していた高校を中心とした経験なので非常に偏ったものや間違った知識を持っているかもしれないというところはご了承の上でお話を聞いていただけたらと思う。

子どもたちの読書には「楽読」と「実読」の2つがあると本に書かれてあった。楽読とは、楽しみながら本を読むといった、一般的に持たれている読書のイメージ。もう一つの実読とは、何かに結び付けるために、情報あるいは知識を得るための実用書などの読書。この2つが人生を豊かにする。ところが、今非常に読書率が低くなっているのではないかと推測する。昔は電車の中でも本や新聞を読んだりしていたが、今は9割近くがスマホを見ている。インターネットだと確かに早いですが、何も知識は残らない。やはり情報重視でスピード重視のときは、ネットがいいが、正確性が劣る。

（梅谷委員）

地域で文庫活動をしているが、子どもたちも忙しくなかなか来ることができない。

（安部委員）

学校での図書館の利用状況はいかがでしょう。

（江口委員）

本が好きな子が一定数いるので、図書館利用者は減ってはいないと思う。インターネットの情報から発展させることも大事だが、紙ベースでの読書活動もしっかり残していくべきであり、今後に残っていくと思う。

(園議長)

大賀委員は読み聞かせの活動に変化があると感じるか。

(大賀委員)

学校の読書の時間が短くなっていると感じる。最初は 15 分間があったが、今は小学校 10 分、中学校 5 分と短くなっている。

中学校の図書館では、子どもたちが来やすい雰囲気を司書の方が工夫して作っており、楽しいスペースになっている。保護者で親子読書があっていたとき、子どもも親にとっても読書に対する考え方も変わり、いい時間だった。

全国の図書館主催の調べ学習だったが、自由研究の論文のような形で提出していた。

(梅谷委員)

基本的には歩いて行けるとところに読書や読み聞かせができるように文庫活動を広めているときがあったが、そのときに広がっただけで継続するのはなかなか難しい。

(園議長)

古賀西には「おひさま」という親子読書の機会があった。子どもたちも読み聞かせの時間を楽しみにしていた。

(梅谷委員)

古賀市内の学校では「ビブリオバトル」といって自分が紹介したい本を読みこむだけでなく、そこから人に伝える活動を推進してくださり、とてもいい活動だと思う。

(江口委員)

古賀市は市の司書が各校の図書館に一人ついているため、しっかりと読書活動の基盤を支えてくださっている。

(藤田委員)

今の子どもたちは、生まれた時からインターネットがあり、調べ学習をするときの本のメリットを伝えていくことが難しいと感じている。

(梅谷委員)

社会教育の中で本のメリットをどう伝えていくか。どんな経験をさせていくかが大事だと思う。

(石川委員)

昔は辞書や図鑑を当たり前のように持っていたが、今はインターネットですぐに調べることができ、いらないのかなと感じる。カチカチ会で紙芝居の読み聞かせをしているが、子どもたちはよく聞いてくれている。

(坂崎委員)

時代によって、紙の良さもデジタルの良さもある。いろんなメディアが便利に使われるようになって、自分が知識に到達するためにはどんな方法がいいかを考えればいいと思う。デジタルの本があるといった情報提供もあれば、子どもたちも本を読むきっかけになると思う。読書活動などを通して、自分が何かを学び続けたいという入り口を提供することが大事だと思う。

(園議長)

古賀はそれぞれの地域で読書活動があり、地域差がそんなにないことが1つの特徴だと思う。

(梅谷委員)

自分の保育士の経験から「0からは何も生まれない。たった1回でも経験したことは記憶に残る。」デジタルも結局は、いろんな経験をさせていきながら、その中でやっぱり1番自分自身に合うものを選択できるのが良いと思う。

(園議長)

笑顔のつどいについて資料1の説明

テーマについて意見があればお願いします。

(梅谷委員)

今までの協議の中で「身近なところの学び」がキーワードになっていた。図書活動など、より身近なところでどう広がるかだと思う。いかに地域の中に多様な学びがあるか。それをもっと焦点化しないとテーマがぶれると思う。

(園議長)

まずは、テーマを大きくしておいて、具体的な団体が決まれば、テーマを絞るという方法もあると思う。

(安部委員)

「子ども食堂」は地域で行われて、年齢層も幅広く、これからやりたい人の参考になるので

いいのではないかと思う。

（石川委員）

去年の笑顔のつどいで子ども食堂の事例発表があり、意見もたくさん出ていた。

（梅谷委員）

学んだことを地域展開することが大切だと思う。いろんな人たちが喜んでくれる姿を見てそれを励みにボランティアを続けることができる。

音楽を通したものは、年齢を超えて広がる。舞の里でギターを教える活動があっている。筵内のバンド活動は若い子から年配の方まで共通で楽しめる。図書、音楽、ダンス、年齢を超えて集っている場や企業を探してみたらどうかと思う。

（坂崎委員）

子ども食堂も運営母体が違うため、紹介することもいいと思う。周知度が低いカテゴリーされにくいものもいくつかあると思う。そういった視点で探してみるのもどうか。

（大賀委員）

興味があるのは子ども食堂だが、去年発表されているので、視点を変えて文庫活動など読書活動についての発表も聞いてみたい。

（梅谷委員）

古本を通した中川区の取り組みがあり、人が集まるごみ捨ての日に古本の交換していた。地域の「こんな方法があるんだ」と参考になるよう事例があったらいいと思う。

（園議長）

進行案について資料1の説明。

進行案については、次回またご意見をいただければと思います。

（事務局）

資料2 笑顔のつどいスケジュール（案）の説明。

3. その他

（1）各委員から

（石川委員）

文化協会から サロンコンサート、九州交響楽団公演の案内

(2) 事務局から

令和7年度九州ブロック社会教育研究大会の出欠について

(3) 次回開催日程

9 月 26 日 (金) 18:30 ～ 会場: 103 洋室

4. 閉会